

製品名: Midline-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13898**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	75kDa

抗原情報

遺伝子名	MID1
別名	MID1; FXY; RNF59; TRIM18; XPRF; Midline-1; Midin; Midline 1 RING finger protein; Putative transcription factor XPRF; RING finger protein 59; Tripartite motif-containing protein 18
遺伝子 ID	4281.0
SwissProt ID	O15344
免疫原	抗血清はヒト TRI18 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 71-120

背景

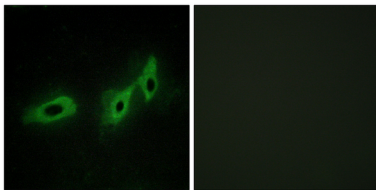
正中線 1(MID1) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、三者モチーフ (TRIM)ファミリーのメンバーである

り、RINGフィンガータンパク質の「RING-Bボックス-コイルドコイル」(RBCC)サブグループとしても知られています。TRIMモチーフには、3つの亜鉛結合ドメイン、RING、Bボックスタイプ1、Bボックスタイプ2、およびコイルドコイル領域が含まれます。このタンパク質は、細胞質内の微小管と関連するホモダイマーを形成します。このタンパク質は、微小管へのアンカーポイントとして機能する多タンパク質構造の形成に関与していると考えられます。この遺伝子の変異は、口唇裂、喉頭裂、心臓欠陥、尿道下裂、脳梁無形成症などの正中線異常を特徴とするオピッツ症候群のX連鎖型と関連しています。この遺伝子は、ヒトではX線不活性化を受けるが、マウスではそれを免れる遺伝子の最初の例でもありました。選択的スプライシングによって複数の異なる転写バリエーションが生成されますが、疾患：MID1の欠陥は、オピッツ症候群I型(OS-I) [MIM:300000]の原因です。OS-Iは、開眼、男性の尿道下裂や女性の開大陰唇などの生殖器-尿路異常、口唇口蓋喉頭気管裂、鎖肛、発達遅延、先天性心疾患を特徴とするX連鎖劣性疾患です。OS-Iの変異は、微小管への親和性が低下したタンパク質を生成します。機能：タンパク質ホスファターゼ2の触媒サブユニットを分解の標的とするE3ユビキチンリガーゼ活性を有する可能性があります。誘導：レトロウイルス要素は、この遺伝子の代替組織特異的プロモーターとして機能します。HERV-EエレメントのLTRは、胎盤および胎児腎臓における発現を増強する。PTM：セリンおよびスレオニン残基がリン酸化されている。類似性：TRIM/RBCCファミリーに属する。類似性：B30.2/SPRYドメインを1つ含む。類似性：COSドメインを1つ含む。類似性：フィブロネクチンIII型ドメインを1つ含む。類似性：RING型ジンクフィンガーを1つ含む。類似性：Bボックス型ジンクフィンガーを2つ含む。細胞内局在：微小管関連。細胞周期全体を通して微小管と関連し、間期には細胞質繊維と共局在し、有糸分裂および細胞質分裂時には有糸分裂紡錘体および中体と共局在する。サブユニット：MID2とのホモ二量体またはヘテロ二量体。IGBP1と相互作用する。組織特異性：胎児では腎臓で最も高い発現が見られ、次いで脳と肺である。胎児肝臓では低レベルの発現が見られる。成人では心臓、胎盤、脳に最も多く発現している。

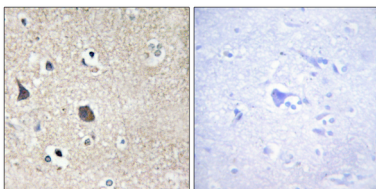
研究分野

ユビキチンを介したタンパク質分解

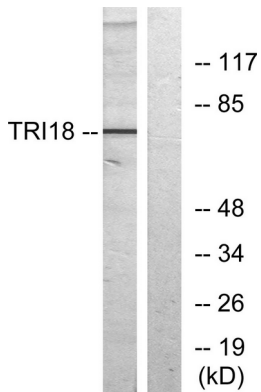
画像データ



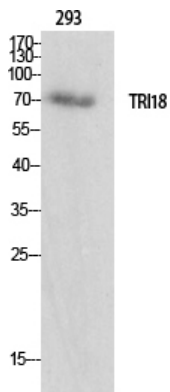
TRI18抗体を用いたHeLa細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



TRI18抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



TRI18抗体を用いた293細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



Midline-1ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



Midline-1ポリクローナル抗体を用いた293細胞のウェスタンブロット解析